

ランドスケープ計画・設計論

丸田頼一・島田正文編著

ISBN978-4-7655-2128-4
B5判・336頁 本体4000円+税

ランドスケープアーキテクチャーは、土地が有する固有の自然の潜在性や資源の存在を基盤としつつ、歴史、文化などの諸要素も関連させ、適切な科学技術的対応と美に関する心理的意識にも配慮し、総合的な環境づくりやレクリエーション空間の永続的確保を図ってきた分野である。本書は、このようなランドスケープアーキテクチャーについて、設計図、写真や図表を多用し、使いやすかつ分かりやすいようにまとめたもの。学生、技術者だけでなく、一般の方にも読みやすく作りました。

よくわかる まちづくり読本

知っておきたい基礎知識88

香坂文夫著

ISBN978-4-7655-1762-1
A5判・220頁 本体2800円+税

カバー作りました

~~【美本ございません】~~ 今、まちづくり、地域づくりは行政だけの問題ではなくなっており、地域の生活者も参加し、知恵を出し合い、活力あるまちをつくるよう求められている。本書は、まちづくりに関わる基礎的、基本的な事柄を簡潔に説明することをコンセプトとし、地域の現状や、問題点、取り組みなど、まちづくりの要点や概要を1テーマ、見開き2ページ単位の構成で、コンパクトに整理した。まちづくりに取り組む一般、まちづくりを学ぶ学生のための入門書として最適。

地球と暮らすまちづくり

スイス・ドイツに学ぶ近自然

長谷川明子著

ISBN978-4-7655-3433-8
A5判・176頁 本体2200円+税

夏は小川で涼をとり、冬はゴミの燃料で暖かく、夜になれば星が瞬き、いつでも土の上を散歩できる。そのように地球を感じながら笑顔で暮らす方法を実践している国がある。本書は、環境と都市生活の両立を目指して、長い試行錯誤の経験を積んでいるスイスとドイツの先進事例をまとめた。地球温暖化が深刻化するなか持続可能なまちづくりが求められている。これらの事例から学べることは多い。

水辺のまちづくり

住民参加の親水デザイン

日本建築学会編

ISBN978-4-7655-2525-1
A5判・218頁 本体2600円+税

住民参加型の水環境整備とまちづくりをどのような観点から評価し、どのように実践していくべきかを事例をとおしてまとめた書。それぞれの執筆者が、具体的な整備計画案が作成されていく過程で、住民参加型のワークショップなどに参画した体験をもとに、ファシリテーターの役割、周辺住民と一般市民の利害関係の調整、意見交換をとおした計画案の収束過程などに触れながら、特徴ある住民参加型事業の実践を紹介した。

都市の緑はどうあるべきか

東京緑地計画の考察から

真田純子著

ISBN978-4-7655-1713-3
A5判・206頁 本体3200円+税

「緑」には環境改善の役割が期待され、1970年代初めには法制化も行われ、都市内の緑地の確保や緑化が義務づけられました。しかし、その中で「緑」は無条件に良いものと見なされ、いかに増やすかといった量的側面だけが課題となっています。本書は、実現しなかった「東京緑地計画」の考察を通じて、緑は単に存在すれば意義があるのではなく、その自然の楽しみ、行楽の楽しみ、また風景として捉えることの重要性を論考します。

道と緑のキーワード事典

カバー作成中（4月出来予定）

【美本ございません】 ハードな人工構造物である道路を、ソフトな自然に、いかになじませるか。本書は、道路を自然に調和させるための既存の技術を、その到達点を明らかにするとともに今後の発展の礎とすべく、集大成した書。使い勝手に配慮し、キーワードをたてて解説している。全頁カラー。



道路緑化保全協会編

ISBN4-7655-1634-2
B5判・191頁 本体3500円＋税

緑資産と環境デザイン論

緑や自然環境を「環境資源」ととらえる立場からの発想は、将来それを皆無にしてしまう可能性をはらんでいる。いま、必要なのは、それを「環境資産」として見る視点である。本書は、「環境デザイン」を、過去から未来へと継承するために、緑や自然環境を資産化し、再資源化する思想、技術の総体と定義して、その体系化に資すべく、まとめられた書であり、環境の評価方法、資産化のためのデザイン手法、資源として継承するためのマネジメント手法等々について、事例も交えながら論じている。



田畑貞寿編著

ISBN4-7655-2119-2
A5判・196頁 本体3000円＋税

ランドスケープエコロジー

【美本ございません】 現代造園学の研究成果、技術的蓄積を集大成するとともに、21世紀に向けて、造園学は環境創造にいかにか寄与してゆくべきかを探るシリーズ（全7巻）の第5巻。ランドスケープエコロジーの基礎概念からビオトープの造成・管理までを解説している。日本造園学会創立70周年記念出版。



日本造園学会編

ISBN4-7655-2125-7
A5判・286頁 本体5200円＋税

ランドスケープの展開

【美本ございません】 現代造園学の成果、技術的蓄積を集大成するとともに、21世紀の環境創造に、造園学はいかにか寄与してゆくべきかを問うシリーズの第1巻。造園原論、造園史などを内容とする入門編、総論編であり、基礎的知識、課題、将来への指針、日本・欧米・太平洋・アジア・中近東における発展史、今後のランドスケープ研究のための視点とその方法などについて、最新の知見を盛り込んで解説している。日本造園学会創立70周年記念出版。



日本造園学会編

ISBN4-7655-2121-4
A5判・256頁 本体4800円＋税

緑と環境のはなし

環境のなかで緑が果たす役割、暮らしの場での緑の創出や保全、緑の保護と管理などについて、地球規模から身近な緑まで、さまざまな段階での具体例をあげつつ述べる。【内容】大気を浄化する緑の働き／地球温暖化で森林に何が起こるか／砂漠緑化の環境学／アーバンエコロジーと緑／都市緑化を考える／エコシティとつる植物／すまいと庭園／植栽の文化／植物の病気百態／環境にやさしい病害防除戦略／みどりの増加と虫の反応／松の緑：松枯れをめぐって／農薬のないゴルフ場は可能か など29話



編集委員会編

ISBN4-7655-4402-8
B6判・212頁 本体1800円＋税